



平成30年度 南小学校区 第1回地域コミュニティ連絡会のまとめ



作成：三島市役所 地域協働・安全課 きずなづくり推進室（TEL：055-983-2708）

6月11日（月）に開催された「平成30年度南小学校区第1回地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。当日の発言や意見をまとめた資料ができましたので、送付いたします。（三島市のホームページにも掲載しています）

■開催概要■

日時	平成30年6月11日（木）19:00～20:45		
会場	消防署		
参加団体 (28名)	中央町自治会 中田町北町内会 富田町自治会 新谷自治会 平田自治会 藤代町町内会 モナーク三島自治会 青木保育園	青木保育園父母の会 南幼稚園 南幼稚園PTA 南小学校 南中学校 南中学校PTA 南小学校支援地域本部	南中学校支援地域本部 環境美化推進委員会 スポーツ推進員 体育振興会 保健委員会 民生委員・児童委員 三島市社会福祉協議会

■次第■

開会・市長あいさつ

- 1 「コミュニティ連絡会について」
- 2 「地域の情報を共有しよう」
- 3 「地域でできることを考えよう」
- 4 「アンケート記入」



「地域の情報を共有しよう」のまとめ

各団体間の情報やお願いしたいことなどを共有しました。

■主な情報交換の内容

団体	情報の概要
三島市 社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターとして、居場所やサロンに顔を出して相談を受けています。
南中学校 支援地域本部	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の清掃活動から活動をスタートしました。 いろいろなイベントをしているので、紹介できたらと思っています。
藤代町町内会	<ul style="list-style-type: none"> 藤代町町内会では、今年4月から「シェアカフェ・クリチバ」という名前の地域カフェを運営しています。
三島市 子ども会連合会	<ul style="list-style-type: none"> 市内各地で子ども会の存続が難しくなっています。少子化も理由の一つですが、親の負担が大きいという理由で入会させない親が多いのも事実です。 子ども会は、将来の自治会の担い手づくりにつながると考えていますが、現在の子ども会は、親たちが活動内容を決めてしまっています。 自治会の皆さんから子どもの親に声かけをしていただければ幸いです。 上級生が下級生を引っ張っていくのが本来の子ども会の姿だと思います。そのような子どもたちの縦のコミュニケーションの機会を作りたいです。
南幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から3歳児保育がスタートし、さらににぎやかになりました。昨年度は園庭の芝生化を行い、子どもたちの擦り傷が減ったり、砂ぼこりもたたず、快適に過ごしています。地域の皆さんも遊びに来てください。
南幼稚園 PTA	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から「おゆずり会」を実施しています。これは、児童の家から使わなくなった服や子ども用品を提供していただき、ほしい方に譲る企画です。 未就園児を対象に「ようちえん de あそぼう会」を開催しています。“あそぼう会”では、季節に合わせた絵本の読み聞かせや簡単な遊びを親子で楽しんでいただきます。「おゆずり会」は、「ようちえん de あそぼう会」も兼ねて実施していますので、未就園児の親御さんもお越しください。
南中学校	<ul style="list-style-type: none"> エスピーくん安心メール（不審者情報等を警察が発信するメール）でも配信されましたが、6/7(木)～9(土)の登下校の際に南中の特定の女子生徒が不審な男性に後をつけられました。場所は、イトーヨーカドーやノジマ電気の周辺です。保護者や学校がパトロールをして警戒にあたっており、警察にも連絡済みです。 南中学校区の南小、東小、西小にも連絡し、各小学校でもパトロールをしていただいています。

「地域でできることを考えよう」のまとめ

南小学校区では、長澤さん（南中学校支援地域本部コーディネーター）と秋山さん（南小学校支援地域本部コーディネーター）の発案により、自分たちが問題と考えているテーマ「地域と子どもの安全を守るために」を取り上げ、参加者の皆さんと意見交換を行いました。

意見交換の概要は、以下に示します。

■発案者の自己紹介

長澤禎文さん…現在、南中学校支援地域本部コーディネーターを務めている。平成18年には南小学校のPTA会長を、平成24年には南中学校のPTA会長を務めた。その後、民生委員の主任児童委員を務めている。子どもたちを守りたい思いが強い。

秋山恭亮さん…現在、南小学校支援地域本部コーディネーターを務めている。新谷自治会では防災委員長を務めるとともに、三島市小中学校PTA連絡協議会の会長、青少年育成会の副会長や学校保健会の副会長など、学校に関する様々な役職を兼任している。

■今回の趣旨の説明

<長澤さんから>

- ・市主催の連絡会では話し合いの時間が限られ、結論を出したり、活動に結びつけることが難しいので、私と秋山さんは、地域主体で地域コミュニティ協議会を運営できないかと考えている。
- ・一刻を争うような時に、必要な情報を一斉に拡散できるような体制にしなければいけない。この地域から自殺する子どもやリンチ殺人で命を落とす子どもを出さないことをPTAの役員をやっているときから強く思っている。
- ・子どもたちが地元に戻ってきたときに、安心な地域だと思ってもらえるようにしたい。
- ・皆さんが集まる貴重な時間をより充実させたいと考え、協議会への移行を準備している。

<秋山さんから>

- ・「地域と子どもの安全を守るために」をテーマに、コミュニティ協議会を目指したい。このテーマには、2つの意味が込められており、1つは、「地域一丸となって、子どもの安全を確保しよう」という意味。もう1つは「子どものみではなく、地域全体の安全をみんなで守っていこう（防災の視点、高齢者の安心）」という意味。
- ・南小学校区の連絡会における主な問題点は、「参加者の入れ替わりが激しいため、継続した議論が困難または結論が出ない」「地域の問題点を解消する具体的な手段を持たない」「自治会の運営組織（連合自治会）が校区内で中部と中郷に分かれている」などがある。
- ・南小学校区としては、子どもの安全確保や高齢化問題に対する対処、地域を包括した防災などを目指したい。
- ・仮に協議会に移行する場合、組織を維持するために活動するのではなく、問題点を解決に導くための組織であり、出席者や各組織の代表者の負担を軽減するものでないといけない。

●こども見守り隊について●

- ・子どもを狙った犯罪が全国各地で発生し、南中学校区でも不審者情報等がある。
- ・このような状況を受け、南小学校支援地域本部では「こども見守り隊カード」を作成し、小学生の保護者や地域団体の代表者等に配布する。そして、子どもの送迎時や日常の散歩時などに各自で着用していただき、子どもを見守っていただけたら良いと考えている。
- ・少数の人が一生懸命頑張るよりも保護者全体・地域全体ができる範囲で少しずつ協力することが大切だと考えているので、皆さんのご協力をお願いします。



■質疑応答・意見交換

参加者：こども見守り隊は、子どもの見守りを毎日するということか？

秋山氏：日常の中でカードをつけてくださるとうれしい。できる範囲でお願いしたい。

市子連：最近、子離れや親離れができない親子が多すぎると感じる。母親があまりにもしてあげすぎて、子どもに考えさせないことが多いのではないかと。良い大学を卒業して就職してもすぐ辞めてしまう若者がいる。自分で物事を考えさせるべきだと思う。

南体振：体育振興会の行事は密に入っている。第1・第3土曜日はミニテニス、第2・第4土曜日は体育館でソフトバレーを開催しており、案内を回覧で回している。グラウンドゴルフ大会は高齢者が喜んでくれるので、年1回でなく2回にした。

このような企画は、参加者がいつも同じ人ばかりなので、輪を広げていきたいが、どうしたら参加していただけるのかわからない。

長澤氏：体育振興会の行事は年間通じて組まれている。学区の運動会の主催者をわかっていない方が多いと思う。自治会連合会が主催で、運営を体育振興会がやっている。人任せにして文句を言う人が結構いるが、体育振興会が運営をしてくれてありがたい。

スポーツ推進：ラジオ体操を始めて20年が経ち、「何か子ども達にしてやれることはないか」と考え、3~4年前から郵便局の前であいさつ運動を始めた。子どもたちがあいさつを返してくれるのが嬉しい。恥ずかしがる子もいるが、中学生はほとんどあいさつに応えてくれる。

長澤氏：私も5年くらい前から通学路のごみ拾いをしながら子ども達に声をかけている。誰かに言われたわけではなく自発的にやっていただけなので、ありがたいと思った。

昨年4月、千葉の児童殺害事件の犯人は保護者会の会長だった。金曜に報道され、月曜には子ども達の反応が違っていた。いつもにこやかにあいさつを返す子がこちらをちらっと見ただけで行ってしまった。今年の新潟の事件の後も同じような現象が起きた。声掛けして様子が変わったなど気付いた事はあるか？

スポーツ推進：事件後変わったことは無い。ただ、最初の頃は恥ずかしくて小さい声だったが、最近は大きな声であいさつしてくれる。

長澤氏：子ども達はあいさつを返してくれないことが多い。家庭の形が変わってきて、家庭の中であいさつをする習慣が無い気もする。元気よくあいさつが返ってくるまで、声を掛ける大人側の忍耐が必要。諦めると子ども見守り隊のカードも無駄になってしまう。1~2回やっただけでは効果は出ない。以前、あいさつしない子が3~4年経て初めてあいさつしてくれて嬉しかったことがあった。皆さんにも経験して欲しい。

参加者：子どもたちは、「知らない人に声を掛けられたら返事をしてはダメ」と言われているようだ。回数を重ねて顔見知りになればあいさつしてくれるので、根気よく続けることが大事だと思う。

自治会長：第3金曜日 7:30～8:00 に歩道橋の所であいさつしている。元気の良い子はあいさつが返ってくる。口は動いていても声は弱い子もいる。大人も同じだが、声を出すのが恥ずかしいようだ。

家の前でも下校時に声を掛けるので、声を掛けることは苦では無い。子どもと一緒にいる母親に声を掛けると変な顔をされることがあるが、声を掛けることはマイナスではないので、積極的に声を掛けていけば顔を覚えてくれると思う。

長澤氏：平成18年頃南小学校の生徒会が中心になって地域の治安を守ろうと「ミナミライフセイバーズ (MLS)」を組織し、地域の方々にも協力してもらった。生徒や先生は入れ替わったがMLSが今も続いているのは、月1回のあいさつ運動をMLSシニアの方々が繋いで頂いたおかげ。平成24年度に南中のPTA会長を務めた時に、MLSシニアの方々が頑張っている姿を見て地域の大先輩方を粗末にはいけないと思い、再活性化させるために何かできないかと思っていた。学校支援地域本部の立ち上げの際、中学校の学校支援地域本部を「南中学校MLS学校支援地域本部」とした。MLSの名前を永久に消えないようにした。

大したことでなくても一歩を踏み出せるかどうかが重要。郵便局前でのあいさつ運動も地域に根付いている。他の方々も誰かに協力するだけでもよいので、仲間になって頂きたい。

秋山氏：現在、見守り活動している方は、活動の時に「こども見守り隊」のカードを付けて頂きたい。見守り活動していない方は、新たに行動を起こさなくても良いので、日常の中で付けて頂くだけで全然違う。まずは半歩のつもりで付けて頂きたい。

また、将来的に予算がついたときに、幼稚園や保育園の保護者にお配りして、送り迎えの時に付ければ、保護者や子どもの安心に繋がると思う。

幼稚園PTA：送り迎えを保護者が行っているので、その時に付けるだけでも犯罪の抑止力になるなら協力したい。

幼稚園：幼稚園としても送り迎えの時に安全確保が大切だと思うので、こういうことがあれば協力したい。

保育園：保育園は車で送迎する方が多いが、既に不審者対策として保護者であることを示すネームプレートを付けて来て頂くようにしている。

秋山氏：その裏側に「こども見守り隊」のカードを入れていただくことは可能か？

保育園：可能だと思う。

保育園PTA：保育園の保護者は1分でも早く子どもを預けて職場に行かなければならないので、車を使う環境にあり、見守りはなかなか難しいが、意識付けには良いと思う。今使っている名札の裏に入れることは大賛成。

秋山氏：将来的なビジョンとして車のステッカーを作ろうと思っている。

長澤氏：自分は防犯の資格を持っている。「知らない人についていけない」と子どもに教えると、「知っている人ならついて行って良い」と考えてしまう危険性がある。過去の性犯罪に関して、子どもと仲良くなってから公園のトイレやマンションの踊り場などで起きる事例が多い。「家族以外の人について行ってはいけない」と教えるべき。

中途半端な人数の見守りでは効果がない。圧倒的多数の善意の目が地域にあることが一番だと思う。そのために、「こども見守り隊」のカードを作り、皆さんが活用して頂くことを望んでいる。家族、知り合いにもお声掛け頂きたい。

地域コミュニティ連絡会から協議会への移行の一番のテーマは子ども達を守ることと考えている。また、各校区の連絡会でテーマとして取り上げている「高齢者の居場所づくり」も重要なテーマなので、子ども達を見守ることをきっかけにして、多世代交流が生まれると子ども達が高齢者を気遣う環境に自然となってくると思う。そこを目指して協議会へ移行すべき。協議会への移行に関して意見を頂きたい。

参加者：今は非常に良い状態だと思う。その理由の1つは、連絡会があり、情報共有ができる体制があるから。もう1つは、地域の安全の確保も大切だが、「都市の空気は自由である」という魅力も必要。過疎地域は何事にも皆でやるしかないが、これだけ規模がある自治体であれば、全員が揃わなくても、住みやすいと思ってくれる人がいることも重要だと思う。

前自治会長：藤代町では、新たな活動として「シェアカフェ・クリチバ」を始めた。クリチバはブラジルの都市で、車を排除して人間のためにつくった都市と言われている。三島で言えば、広小路から大社までを歩行者天国にして車を排除するようなもの。そこに木や花を植え、ベンチを置いて、市民の憩いの場所になっているまちだ。

自治会や体育振興会、子ども会など、各団体が手詰まりな状態にある。それを突破口として何か違うことをやって皆で集まり直すのが協議会だと思う。

藤代町は新しい町なので繋がりが薄い。そのため、シェアカフェを作って、公園には企業の協力を得て木を63本植え、町内の園芸農家に協力していただき100本の花を植えた。これらは、市などから補助金をもらったわけではなく、「自分たちの町は自分たちでよくする」という考えで行った。少しやり方を変えれば、新しい動きとなり、うまく回ると思う。協議会がそれを回す役目を持っていると期待している。

長澤氏：藤代町は早い段階で子ども会が消滅したが、それをきっかけに新しい形ができた。子ども会入会者だけの集まりではなく、自治体でイベントをつくるので、子ども達に気軽に遊びに来てもらえるようにした。今までのやり方に捉われないことをやっている。この地域にはヒントがあふれている。